

梅鶯仏教壮年会報

第187号
2024年
3月24日

梅鶯仏教壮年会
総会 定期

三月三十日(土)

午後五時より

役員会

同日 午後四時より

*懇親会



散つてすがれたたんぽぽの、
瓦のすきに、だアまつて、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼にみえぬ、

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ、

金子み

すゞ

(質問) 阿彌陀如来は一体現
か。の質問。阿彌陀如来は一体現
は。い。つ。か。の。質問。阿彌陀如来は一体現
の。教。え。し。よ。う。が。を。感。じ。ま。す。お。願

はい。質問ですが、言葉には出しにく
は。向。き。合。う。こ。と。の。あ。る。疑。問。だ
と。思。い。ま。す。
と。考。え。る。の。か。と。い。う。こ。と。か
で。す。
を。私。達。は。地。球。で。百。年。ほ。ど。の。命
を。生。き。て。い。ま。す。が、宇。宙。の。広
大。さ。や。宇。宙。の。寿。命。か。ら。考。え。て
も。取。る。に。足。ら。な。い。存。在。だ。と。い
え。ま。す。
目。で。見。る。と。耳。で。聞。く。と、自。分。の
識。で。推。し。量。れ。る。こ。と。の。み。を。信
じ、考。え。現。実。と。認。め。ら。れ。る。こ。と。だ
と。考。え。呼。ば。れ。る。迷。い。の。存。在。な
の。で。す。
か。の。迷。い。の。世。界。か。ら。抜。け。出
る。に。は。真。実。の。世。界。か。ら。働。き
お。け。で。し。な。か。な。い。と。お。釈。迦。様。は
お。説。き。な。ら。な。い。と。お。釈。迦。様。は
南。無。阿。彌。陀。如。来。が。一。現。実。か。架。空

球。上。に。お。ら。れ。た。方。で、約。2。5
0。年。前。に。お。ら。れ。た。方。で、約。2。5
し。て。現。在。の。ネ。パ。ール。で。誕。生。さ
が。あ。り。ま。す。が。大。乗。仏。教。で。は。諸。説
月。8。日。と。さ。が。大。乗。仏。教。で。は。諸。説
部。經。『。お。釈。迦。様。が、『。淨。土。三
に。お。い。て、法。藏。と。い。う。修。行。者
が。阿。彌。陀。如。来。と。な。れ、淨。土
と。い。う。国。で。今。現。に。教。え。を。説。い
て。お。ら。れ。ま。す。
お。ら。れ。ま。す。
ま。親。鸞。聖。人。は、一。彌。陀。の。本。願
の。説。こ。と。虚。言。な。る。べ。か。ら。ず。積。尊
説。の。御。釈。虚。言。し。た。ま。ふ。べ。か。ら
導。の。御。善。導。の。御。釈。虚。言。し。た。ま。ふ。べ。か。ら
ず。然。の。善。導。の。御。釈。虚。言。し。た。ま。ふ。べ。か。ら
法。然。の。善。導。の。御。釈。虚。言。し。た。ま。ふ。べ。か。ら
や。然。の。善。導。の。御。釈。虚。言。し。た。ま。ふ。べ。か。ら
ば。然。の。善。導。の。御。釈。虚。言。し。た。ま。ふ。べ。か。ら
も。つ。て。親。鸞。が。申。す。む。ね、か。ら。ず。候
ふ。か。つ。て。親。鸞。が。申。す。む。ね、か。ら。ず。候
如。來。か。ら。歎。異。抄。』。と。阿。彌。陀。候
貫。性。を。語。つ。て。お。ら。れ。ま。す。こ
の。言。葉。が。回。答。の。よ。う。に。思。わ。れ
相。応。し。い。回。答。の。よ。う。に。思。わ。れ
ま。す。
阿。彌。陀。如。来。が。一。現。実。か。架。空

題材法話

前号からのつづき

親鸞聖人は「酒はこれ忘憂の名あり、これをすすめて笑うほどになぐさめて去るべし」と仰り、蓮如上人は「一寒天には御酒等のかんをよくさせられ、て・・・、炎天の時、は、酒など冷やせと仰せられ・・・。」とすすめられました。

も、親鸞聖人も蓮如上人が他人を思いやる優しさが伝わってきます。

上人は、聞法とお酒に
関して大変厳しい姿勢
も示されています。

○蓮如上人の叱責

それは蓮如上人がお

作りになつた「
度章」と名付け
御文章の中にあ
す。
「毎月両度」



聖人の命日に毎月みんなでお参りするという習慣がある。二回のお参りのことを「毎月両度」と呼んでいます。その毎月両度の在り方については以下のよう

に書かれています。度、の寄合の由来は、な

にのたためぞというに、さら、に他のことにあら

ず、自身の往生極樂の信心獲得のためなるが、

ゆえなり。しかれば、往古より今にいたるま

でも、毎月の寄合とい

うことは、いづくにも

これありといえども、

さらに信心の沙汰とて

は。かつてもつてこれな

し。ことに近年は、い

ずくにも寄合のとき

は、ただ酒飯茶など

ばかりにて、退散せり。の

の本意には、

からざる次



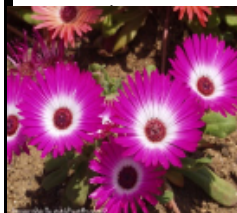
に、なにの所詮もな
く、退散せしむる条し
かるべからずおぼえは
んべり、よくよく、思
案のめぐらすべきこと
なり』

原文でも大体分か
りだと思いますが、
ちよつと解説します
と、一そもそも、毎
両度の寄合というの
何のためなのかとい
と、他でもなく自分
身の往生極楽の信心
獲得するためののです
よ」から始まり、

「それなのに、信心に
ついて語られていて
いうことは、あまり聞
いたことがない」と厳
しく仰り、

「ことに最近では、ど
この寄合も、ただ酒飯
茶だけ、つまりお酒を
飲んだりご飯を食べ
り、お茶を飲むで、
「帰つてくれ

「信心につい



と、蓮如上人はかなり怒つておられるのです。

○已今当に通じる戒め

代のことは蓮如上人の時
く、今の時代の私達に
対しても仰つてゐるの
でしよう。

私達は、やはりたま
には酒酌み交わして親
睦を深めたり、親しく
交流することゝ大事で
すが、肝心のご法義を
学び、お念仏の喜びを
語り合う、といったこ
とがお座なりになつ
て、いわゆる「酒飯茶
が中心」になつてしま
まつてはいけないとい
うことです。

梅鶯仏教壮年会は発
足時に、酒飯を伴う会
合は総会と報恩講の年
二回（後に除夜会が追
加）だけとし、各月の
例会では一切酒飯は伴
わないことを決め事と
してスタートし、20

